

職員アンケートの考察と来年度の方向性

1 研究主題・副主題について

「自ら学び、考えを深めることができる児童の育成」の実現に向けた授業改善を図るために、「論理的思考力を養うための指導法の工夫」を副主題に取り組んできた。改めて授業の大切さを実感できてよかったという意見が多く出されたが、来年度は「来年度は情報機器の活用など、今の時代に沿った主題を」という意見も出されている。

2 研究目標について

研究主題につながる具体的な目標として適切であった。まずは理論研究から始めたことは良かったという意見が出された。

3 研究内容・研究方法について

(1) 「論理的思考」について 茅野政徳先生・早川健先生をお招きしての学習会

講師の先生方をお招きしての学習会を1学期に実施できたことで、学習会を通して論理的思考について理解を深めることができ大変有効だった。改めて授業実践の大切さを感じた、という感想が出された。また、教科を限定しなかったこともあり、「広く浅く」の研究であったという反省も出された。

(2) 論理的思考を養うための授業実践と参観・学年ごとの振り返り

各自が「ウェルカム授業」を実践し、その授業での論理的思考を養うための手立てを明確にした「授業デザインシート」を提案した。デザインシートは、分かりやすく教員にも負担の少ない形でよかったという意見が多く出された。しかし「お互いの授業を気軽に参観し合って学び合いたい」と設定した「ウェルカム授業」は、実際には自分の教室をあけることが難しく、同じ学年同士でも授業を見合うことがなかなかできなかった。また、感染症対策の面から学校全体や学年ごとなどで話し合う時間があまりとれず、結果的に個人での授業作りとなってしまった。それぞれの授業実践を、もっと共有できるとよかった。

また、当初は計画になかった国語科・算数科の研究授業を提案していただくことができた。全体で授業を参観し、研究会で成果と課題を話し合うことができたことは大変勉強になった、という感想がたくさん出された。しかし、指導案作成では、学年で検討していただいたり、大学の先生からご指導いただいたりはしたが、結果的にお二人の先生方に大きな負担となってしまった。

4 研究計画について

今年度は感染症対策の影響で、年度当初に、どの程度実践できるのか見通しが立てにくく、「とりあえずできることをまず『やってみる』」というスタンスで始めた。しかし、途中で計画を変更することが多く反省している。

管理職の先生方のご配慮で、ウェルカム授業を評価授業としていただけたので、大変ありがたかった。

5 研究組織について

学年ごとで研究を進めることとしたが、人数的にもよかったという意見が多かった。研究授業の指導案検討など、もっと組織を活用できればよかった。

6 研究の成果

学習会を開き、講師の先生方から「論理的思考」についての基本的な考えを学ぶことができた。その上で、一人一人が「論理的思考」を意識して様々な授業を試行錯誤して考え、実践することができた。また、研究授業やウェルカム授業を参観することで、お互いに学び合う機会ももてた。

7 研究の課題

今年度は、全体で話し合う時間をなかなかとることができなかった。研究授業の指導案検討やウェルカム授業の授業デザインシートの作成段階でもブロックごとに研究を進めて、共通理解を図っていくことも必要だった。また、ウェルカム授業がいつあるのかいつどこであるのかが分かりにくかったり、授業を見に行く時間が取れなかったりと、研究授業以外のウェルカム授業を有効に活用できなかった。

年度始めの提案と少しずつ方向が変わってしまった。いろいろな状況を見通した上で、年間計画を立てる大切さを実感すると同時に、その難しさも実感する1年だった。

8 来年度の研究の方向性について

引き続き「論理的思考力を養うための指導法の工夫」の研究を継続していきたい（教科を絞る）という意見と、タブレットの授業での利用方法の研究や児童の実態に合わせた課題の設定にしたらかどうかという意見が出している。また、昨年度までの午前5時間制の取り組みに、校内研究でどのように関わっていくかという問題も出された。